

西諸島地域の普及活動

令和5年11月
西諸島農林振興局
(西諸島農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 農業改良普及事業推進協議会幹事会及び農業経営指導士会合同の県内先進事例調査を実施

9日に農業改良普及事業推進協議会幹事会及び農業経営指導士会合同の県外先進事例調査を実施しました。

はじめに、熊本市のすぎかみ農場で取り組まれている、農地中間管理機構事業とスマート農業による農地・農作業管理について調査しました。担い手の減少により当農場に集積された広大な圃場をICTを活用して、効率良く農地管理を行い、地域の農地を守る取組を行っています。

また、菊池郡大津町のネットワーク大津は、複数の集落営農組織が再編・統合した広域的な集落営農法人で、新しい耕畜連携の取組として、非主食用米等の生産による水田利用の高度化とその生産物を国産飼料資源として畜産経営に繋げる活動をしています。

いずれの取組も、地域の農地・農業の維持や効率的な営農を行いながら地域産業基盤を支える活動を行っており、西諸島地域にとって参考になる調査でした。



【スマート農業、農地管理等について調査】



【耕畜連携の取組等について調査】

2) 第19回えびの市 米・食味コンクールが開催

21日に、JAえびの市本店2階大会議室にて「えびの市 米・食味コンクール」が開催されました。

出品数はヒノヒカリが117点、団体賞の部が5点、小学校の部が4点で、77名の審査員による食味審査の結果、ヒノヒカリの部最優秀賞にHさん、優秀賞にKさんとIさんが選ばれました。

また、団体賞は下大河平自治会、小学校の部最優秀賞には真幸・岡元小学校がそれぞれ選ばれました。

特別審査員長を務めた京都の老舗米販売店(株)八代目儀兵衛の松下祐取締役からは、「えびの市の米は大変品質が良く、口に運んだらストレートな甘みを感じる」との審査講評を頂きました。



【講評する「八代目儀兵衛」の松下氏】

3) 普通期水稲収量調査を実施

8日、9日に西諸県農業改良普及センターにて普通期水稲の収量調査を実施しました。

今年設置した水稲の展示ほや定点ほ場の坪刈りを行い、稲わらや玄米の重量から収量を算出しました。

今年度は、1穂粒数が平年の88%と少なく、収量は平年の96%となりました。これらの結果を踏まえ、今年度の管内水稲生産状況を把握するとともに、次年度以降の高品質な水稲生産のための技術指導を行っていく予定です。



【収量調査の様子】

4) 第64回宮崎県畜産共進会（乳用種牛の部）が開催

27日、西諸県地域家畜市場において、第64回宮崎県畜産共進会（乳用種牛の部）が開催されました。第1類から6類に県内3地域から59頭の乳用牛が出品され、西諸県地域からは17頭が出品されました。

グランドチャンピオンに、高原町の合同会社I牧場出品の「レスポアール ゴールキック ハーゲン」号が選ばれました。各類の入賞者は以下のとおりです。



【受賞者(右から2番目が合同会社I氏)】

類	入賞区分	名号	出品者地域	氏名
2類	1席	CVF デンバー トロキ アミダチップ	小林市	N氏
4類	2席	SWF ガス ミスティー セクシー ラム	高原町	S氏
6類	1席	レスポアール ゴールキック ハーゲン	高原町	合同会社 I牧場

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

1日、きりしまアグリトレーニングセンターの研修生の相談に対応しました。研修生は、施設きゅうりでの就農予定で、今回は就農計画作成に向けた聞き取りを行いました。今後は、就農に向けて5カ年の経営規模や必要な資材等を整理してもらい、就農計画作成支援を随時行っていく予定です。

8日、2件の就農相談に対応しました。1件は、小林市で肉用牛繁殖による就農希望者で、両親が非農家であるため、牛舎などを第三者から購入し、経営を開始したいと考えており、牛舎は既に見つけている状況でした。今後は、農地の確保等を進めるよう助言をしました。もう1件は、高原町で、法人勤務を継続しつつ、肉用牛繁殖経営を開始したいとの相談だったので、兼業農家では制度資金等の活用は難しい旨を説明しました。

今後も引き続き、就農に向けた支援を実施していきます。

(内訳 小林市：施設野菜1名、肉用牛繁殖1名、高原町：肉用牛繁殖1名)

2) 第三者承継の相談対応を実施

6日、高原町で、肉用牛繁殖経営を行っている農業者の第三者承継について、相談対応を行いました。今回が2回目の相談対応で、承継する資材や牛の評価などが両者の間で共通認識が図られている状況でした。この相談には、宮崎県事業承継・引き継ぎ支援センターも入ってもらっており、今後は、専門家に覚書き書の作成支援依頼を行い、承継を進めていく予定です。

3) アグリ★ベーシックセミナー（畜産コース）を開催

2日、9日、15日、22日の計4回、普及センターでアグリ★ベーシックセミナーの畜産コースを開催し、肉用牛繁殖経営に取り組む7戸の新規就農者等が参加しました。

講義は「母牛の飼養管理」、「子牛の飼養管理」、「飼料作物の栽培～給与」及び「畜産経営における経営管理」を普及センター、「繁殖牛及び子牛の疾病」をNOSAI宮崎西諸家畜診療所の佐藤所長が務めました。肉用牛繁殖経営に必要な基礎知識を、1ヶ月間にわたって学びました。



【講習会の様子】

参加者は就農されてからまだ日が浅い方ばかりでしたが、日頃の経営で疑問に思ったことや分からないことを積極的に質問しており、次代の担い手として成長していくことが期待されます。

（にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立）

1) 採種さといもの収穫調整作業に関するコンサルタントの実施

栽培面積が減少している採種さといもの栽培面積拡大のため、昨年度に引き続いて県単事業を活用し、コンサルタント会社を活用した課題や対策の整理に取り組んでいます。

22日に、JMAC（コンサルタント業者）、JAこばやし、ジェイエイ・アグリシード及び県の関係機関による検討会を開催し、現状の整理を行いました。今年度は収穫・出荷作業の受委託化や種芋の受発注のDX化を進めることにより、優良な種芋をより供給しやすい体制を構築する予定です。

2) 畑かん展示ほ（しょうが）の収量調査の実施

7日に、えびの市白鳥で、市役所担当者の参加のもと、畑かん展示ほ（しょうが）の収量調査を実施しました。展示ほでは、しょうがのほ場乾燥対策として、畑かん散水器具（大型スプリンクラー）を設置し、降雨が少ない時に、適宜かん水を行いました。

その結果、かん水を行わなかった場合と比較して、2割以上の増収を確認できました。

今後は、畑かん関係者やしょうが生産者等に結果の周知を行う予定です。



【畑かん展示ほ（しょうが）】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAこばやしきゅうり生産部会定期総会

28日、夏秋及び促成きゅうりの生産者で組織するJAこばやしきゅうり部会の令和5年度定期総会が、普及センターにて開催され普及センターから3名が出席しました。

総会では祝辞を兼ねて、普及センター黒木課長から、スーパーエルニーニョ現象に対応するための管理について説明がありました。

今後、JAの営農指導員と一緒に巡回し、暖冬への対応など管理が確実に行えているのか、確認と指導を行っていきます。



【定期総会での祝辞】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JAこばやしマンゴー部会 運営委員会

7日、JAこばやし野尻支所にて、JAこばやしマンゴー部会運営委員会が開催されました。会議では、加工マンゴーの追加精算や今後の活動予定について話し合われました。普及センターからは、園地マップ作成のための聞き取りへの協力を呼びかけました。

今後も、関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産等への支援を行っていきます。

2) 小林市果振協 役員会

7日、普及センターにて、小林市果振協役員会が開催されました。会議では、12月に総合農業試験場で行う研修会について話し合われました。研修会では、病害虫専技と果樹部の梨ぶどう担当に講義をいただき、また川南町の園地も見学する予定です。

今後も、関係機関で協力し、高品質なマンゴー生産等への支援を行っていきます。

3) ぐれ〜ぷ 活動打合せと情報交換会

10日、ぐれ〜ぷの活動打合せ、情報交換会を開催し、会員5名、関係機関2名が参加しました。活動打合せでは、12月に福岡県視察、1月に宮崎県総合農業試験場との情報交換会を行うこととなり、会員の活動へのやる気が刺激された様子でした。また、打合せ後には情報交換会が行われ、今作の梨ぶどうの出来や来作に向けての意気込みなど、活発に意見交換が行われていました。

今後も、関係機関と連携し、管内の若手梨ぶどう生産者への支援を行っていきます。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ラナンキュラス先進的な産地への視察及び意見交換の実施

9日、西諸県地区営農振興協議会花き部会のラナンキュラス現地視察として、関係機関10名、西諸県地区管内ラナンキュラス生産者7名の計17名で、先進産地である西臼杵を訪問しました。

最初に室内にて、両地域の概要を説明後、当地域が聞きたいテーマを中心に意見交換を実施しました。室内検討後は、五ヶ瀬町のラナンキュラスほ場で現地視察となり、園主から栽培の概況を説明いただいた後、ハウス内でお互いに情報交換を実施しました。

当地域から参加した生産者の反応はとても良く、自分のほ場と異なる生育状況に驚きつつ、どの管理が異なるのかなど積極的に質問する等、熱心な姿勢で臨んでいました。

普及員として、普段から、先進地の情報を得て生産者につなぐ活動を行っていますが、生産者自身が、実際に見て感じて情報を交換することはとても有意義なことだと改めて感じたところです。

生産者自身、視察を通して、管理方法などを改善しようという気持ちが高まっていますので、引き続き安定生産のための技術支援に務めていきたいと思えます。



【室内での意見交換】



【現地ほ場での視察・意見交換】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) でここの花(農村女性アドバイザーOG会)及び西諸県地区女性農業者サポート協議会研修会を開催

5日、普及センターにおいて、でここの花(農村女性アドバイザーOG会)及び西諸県地区女性農業者サポート協議会研修会を開催しました。

講師にDesign labo あしたの 代表 竹本千奈美氏を招き、「整理・整頓及び収納の基本～いざという時に備えよう～」という演題で講演してもらいました。

講師は、二級建築士や整理収納アドバイザー等の資格を持ち、各種セミナーの講師や整理収納作業等で活躍している方で、具体的な事例を交えながら、参加している女性農業者に質問したり、女性農業者からの質問に答えたりと、参加者も熱心に話をきいていました。



【研修会の様子】

2) 西諸県地区営農振興協議会 特用作部会検討会の開催

28日、普及センターにて検討会を開催し、関係機関担当者16名が参加しました。

今回の検討会では、「令和6年度 西諸県地区茶栽培こよみ」の作成や茶の省力施肥展示ほ等に関する協議を行いました。

今後も、茶などの特用作振興に向けた部会活動を積極的に行っていきます。

3) JAえびの市いちご団地ほ場の植防展示ほ調査及び巡回

28日、えびの市のいちご団地のほ場において、植防展示ほ調査を実施しました。対象病害虫はうどんこ病で、すべての生産者が防除する必要があるため、今回の植防試験の結果を踏まえ、巡回の中で指導していく予定です。

また、調査の後、団地の生産者の状況を確認しました。12月上旬には収穫が始まる生産者がいるので、引き続き技術指導を行っていきます。

4) メロンの植防展示ほ試験の実施

24日、管内のアールスメロン生産者のハウスで、植防試験の調査を実施しました。対象病害虫はアブラムシ類でしたが、今年はコナジラミの発生が多いとのことで、アブラムシとコナジラミ両方を調査しました。

年々、害虫の薬剤抵抗性が高まっていますので、今回の試験結果を、より効果の高い農薬の選定の参考にしながら、管内の生産者への横展開を図っていきます。

5) 西諸県地区果樹技術員会 県外視察研修

16～17日、技術員会で長崎県、福岡県、熊本県視察を行い、南島原市役所（長崎県）や福岡大同青果（福岡県福岡市）、熊本県農業研究センター果樹研究所（熊本県宇城市）等を訪問しました。南島原市役所ではトレーニングファーム等について、熊本県農業研究センター果樹研究所では落葉果樹の栽培等について説明を受け、西諸県での事例を含めた意見交換を行いました。

今回学んだことを活かし、今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

6) 小林市花き振興会花育支援

8日、小林市管内の幼稚園にて、小林市花き振興会の花育が実施されました。小林市花き振興会3名と小林市役所、振興局、普及センターで園児に苗物の寄せ植えを支援しました。

苗物は、小林市花き振興会役員が生産している苗を使用し、生産者が進行と寄せ植え方法などの説明を実施しました。

園児はとても楽しそうに寄せ植えを行っており、小さい頃からの花育は大切だと参加者全員で感じたところです。

園児の元気で楽しそうな雰囲気にこちらが癒やされたところですが、楽しそうに花とふれあう姿に花育活動に意義を感じました。



【寄せ植え支援】

7) ラナンキュラス作付け調査の実施

14日、西諸県花き技術員会員9名で、JAこばやし管内のラナンキュラス生産者7戸のほ場の作付け調査を実施しました。まだ花はない状態ですが、生産者のほ場の状態を関係機関で共有することができました。

また、今回の品種構成や欠株の調査結果により、生産状況を把握でき、出荷計画につながります。引き続き、関係機関で協力し、安定した出荷に向けて支援を行っていきます。



【ラナンキュラス作付け調査】

8) コーン・ペネトロメーターによるほ場硬度測定（調査研究）

今月から、西諸県管内のキイチゴのほ場において、コーン・ペネトロメーター（以下コンペネ）を用いた土壌硬度の測定を実施しています。コンペネを使用することで西諸県管内の花きほ場の排水性や生育状況などを把握し、今後の土づくりの判断材料とすることを目的としています。

今回は併せて根の発根状況についても調査しました。

今後も引き続きほ場を調査し、傾向を分析しながら、生産者毎の土壌改善に繋げていきます。



【キイチゴ 根調査】



【キイチゴ コンペネ調査】